

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習の時間

【 題材 】 1年：消防署本部での防災学習、遠野まごころネット、ボランティア活動
2年：語り部による山田町震災当時の様子と現状、山田町の仮設団地訪問
3年：語り部による陸前高田市当時の様子と現状、大槌町訪問

【 対象 】 ○1学年46名 ○2学年47名 ○3学年58名 合計151名

【 実践の概要・詳細 】

- 1学年の実践** 1 遠野市の防災についての学習 2 遠野まごころネットについての学習
3 被災地でのボランティア活動 **3つの学習活動実施**

ボランティア活動(釜石市)



- ・食品として利用(油)
- ・車の燃料として利用(廃油)
- ・エネルギーとして利用(暖房)
- ・菜の花畑で町おこし



「雇用」をつくる

菜の花畑の草取り

【 感 想 】

- ・ボランティアを行って菜の花が復興へ繋がるものだとわかった。
- ・みんなで復興に関われたが、「もっとできる!」と感じた。

2学年の実践

- ・復興教育の一環として6月27日に沿岸被災地の山田町に行ってきました。

ねらい

- 1 大震災を通して、その教訓や被災地の現状と課題を自分たちの目と足で確かめる。
- 2 中学生として何ができるのかを問い、これからの生き方に生かしていく学習に取り組む。

震災後の山田町



震災後はほとんどの家が焼失しました。大津波によって住みなれた家々が流され、火事ですべてを失った山田町の人たちはどんなにつらかったか、改めて災害の恐ろしさを感じました。

当時の様子を語る



私たちは地元の語り部さんとともに、実際に被災した山田町を巡り歩き、当時の様子等を説明してもらいました。「びはん」というスーパーの2階では当時の被災の様子や地元の方々が県内外からの様々な支援を支えに、大災害を乗り越え、互いに助け合い絆を深めていった取り組みを映像で学ぶことができました。3年が経過しても、いまだに何も無い更地や仮設店舗がほとんどでした。なぜこんなにも復興が遅れているのか、被災地の方々がいつになったら本当の意味で生活再建ができるのか、なかなか復興が進まないもどかしさを感じました。

仮設団地訪問のねらい

- 1 「仮設団地の方々と心温まるふれあいを重視する」
 - 2 「仮設団地の方々が楽しんでいただけるよう、工夫する」
 - 3 「訪問をきっかけに、継続して支援の気持ちを伝えていく」
- ◎特に今なお不自由な暮らしを強いられている仮設団地の方々のために「中学生の自分たちができることは何か？」をみんなで考えました。